

平成31年度 事業計画書

自 平成31年4月 1日

至 平成32年3月31日

東京都千代田区丸の内一丁目6番1号
公益財団法人 日立財団

目 次
(平成 31 年度事業計画書)

はじめに	1
1. 学術・科学技術の振興	1
1. 1 倉田奨励金.....	1
1. 2 日立財団科学技術セミナー	2
1. 3 日立スカラシップ事業	2
(1) 博士課程留学支援プログラム	
(2) リサーチサポートプログラム	
1. 4 日立財団アジアイノベーションアワード	2
1. 5 「ストックホルム犯罪学賞」への助成	3
2. 人づくり	3
2. 1 理工系人財育成支援事業	3
(1) 日立みらいイノベータープログラム(小学生向け).....	3
(2) 理工系女子応援プロジェクト(中・高生向け).....	3
2. 2 横山基金事業:日立少年少女発明クラブへの助成	4
2. 3 大好き いばらき作文コンクール.....	4
2. 4 日立市少年少女スポーツ育成大会事業.....	4
3. 多文化共生社会の構築	4
3. 1 「多文化共生社会の構築」シンポジウム	4

はじめに

当財団は、平成 27 年 4 月の 5 財団統合後、それぞれの財団の設立の理念を継承しつつ、事業内容の検証、再構築をおこない、より社会のニーズに応じた事業活動に向けて改革して参りました。平成 31 年度は、これまでの日立財団の 3 つの重点分野を見直し、

1. 学術・科学技術の振興
2. 人づくり
3. 多文化共生社会の構築

とすると共に、各分野の個別事業の企画、実行と効果の検証をおこない、引続き持続可能な社会の構築や国民生活の向上、さらには国際社会へのさらなる貢献をめざしていきます。

平成31年度の事業計画概要を以下に示します。

1. 学術・科学技術の振興

1.1 倉田奨励金

5財団統合を機に、主要な社会課題解決に対して文理融合的な研究支援を導入し、先駆的な助成事業として認知されている。リニューアル 3 年目の平成 30 年度は、226 件の応募の中から 30 件の研究テーマに総額 3,090 万円を助成する。

平成 31 年度は、高度に進んだ科学技術社会の到来を見据え、通底する人文知のさらなる高度化を担う研究者支援を新たに立ち上げる。研究助成金の交付の内容は下記の通りする。

1) 助成対象

① 自然科学・工学研究部門

社会課題解決に資する独創的・先駆的な自然科学・工学研究で対象を下記3分野とする。

- I. エネルギー・環境分野
- II. 都市・交通分野
- III. 健康・医療分野

② 人文・社会科学研究部門

高度科学技術社会が抱える複合的な諸問題を読みとぎ、通底する哲学・思想・歴史等を探究する研究。

2) 奨励金額

奨励金総額は、4,200万円とする。

3) 応募の条件

国内の研究機関(博士後期課程を有する研究科、同研究科に係る学部、または文

部科学省科学研究費補助金を申請することができる法人)に所属する研究者を対象とする。ただし国籍は問わない。

- 4) 募集の案内
平成31年6月下旬～7月上旬に日立財団ホームページに募集案内を掲載する。
- 5) 応募締切り 平成31年9月下旬
- 6) 選考方法 選考委員会において、審査のうえ決定する。
- 7) 交付者決定 平成32年1月上旬～2月上旬
- 8) 倉田奨励金贈呈式 平成32年3月初旬

1. 2 日立財団科学技術セミナー

平成30年度は、高尾記念科学技術公開セミナーとして、東京大学産業技術研究所 須田義大教授を講師に招き、「モビリティ・イノベーション～自動運転システムが変える交通と物流」と題して講演を行なった。

平成31年度は、事業名称を「日立財団科学技術セミナー」と改称する。従来の一般市民に最先端の科学に触れる場を提供すると共に、倉田奨励金受賞者による講演会やパネルディスカッションを開催し、倉田奨励金との連携を明確化すると共に倉田奨励金のプレゼンス向上を図る。

1. 3 日立スカラシップ事業

(1) 博士課程留学支援プログラム

平成29年度の招聘者4名を最終招聘とし、平成30年度は9名に対し、奨学給付金・学費・研修研究費の支給等の支援を行った。平成31年度は6名に対し同支援を行う予定。本事業は平成32年度で終了予定。

(2) リサーチサポートプログラム

科学技術の振興を通じた社会課題解決を目的に、倉田奨励金と同じ自然科学の3分野(「エネルギー・環境」「都市・交通」「健康・医療)」において、基礎的・応用的研究を行う東南アジアの研究者(大学教員)を支援する。平成30年度は11名を受入。平成31年度は9名を受入れる予定。本事業は平成32年度で終了予定。

1. 4 日立財団アジアイノベーションアワード

近年のアジア諸国の経済発展、科学技術の研究水準の向上を踏まえ、大学の人財育成を中心とした日本への招聘型の支援を改め、これまで30年余の学術交流、ネットワークも生かし、アジア地域の社会課題解決に資する科学技術イノベーションの研究及び研究開発の成果に対するアワード新設に向けて、平成31年度はアワード制度策定ワーキンググループを設置し、現地のニーズも踏まえ表彰の内容を検討し、平成32年度からの募集開始に向け準備する。

1.5 「ストックホルム犯罪学賞」への助成

スウェーデン法務省の後援を受けて、犯罪学分野の国際賞「ストックホルム犯罪学賞」が創設された。この賞は犯罪研究に優れた業績、もしくは研究結果を応用して犯罪の低減と人権の促進に貢献した方に贈られるものとなっている。ストックホルム犯罪学賞は毎年1名(共同研究の場合は複数名)の受賞者に贈呈される。初の授賞式は平成18年6月にストックホルム市庁舎で開催された。当財団は、平成18年度に500万円を助成した。また、平成19年度から毎年100万円を助成してきたが、当初の目的を達成したため、平成30年度をもって終了とする。

2. 人づくり

2.1 理工系人財育成支援事業

近年、「科学離れ」「理科離れ」が叫ばれる中、ものづくりやイノベーションの基盤が揺らぐことが危惧され、日本の次世代を担う理工系人財の戦略的育成が課題となっている。そうした背景を受け、平成28年度より、日立財団の重点分野である「人づくり」の柱として、中長期的視野に立った「理工系人財育成支援事業」を立ち上げ、以下の活動を行っている。

(1) 「日立みらいイノベータープログラム」(小学生向け)

平成30年度は「イノベーション創出」できる次世代の理工系人財を育てることを目的に独自に開発した、プロジェクト型の探求学習プログラム「日立みらいイノベータープログラム」を日立グループの社員を企業講師として派遣し、茨城県日立市立河原子小学校、東京都中野区立緑野小学校および埼玉県戸田市立新曾小学校にて実施した。また現場のニーズを取り込みプログラムを見直し、平成31年度実施にむけプログラムを確立した。平成31年度も関東の3~4校で実施予定。

(2) 理工系女子応援プロジェクト(中・高生向け)

理工系女子への関心や理系進路へのモチベーションを喚起させる啓発活動を社外有識者、女性研究者および女性技術者を活用して行い、理工系女子育成に貢献する。平成30年度は理工系女性ロールモデルとして明治大学 総合数理学部 五十嵐准教授との対談に加えて、内閣府の理工チャレンジ(リコチャレ)に賛同し、五十嵐准教授を講師として招き、インタラクティブビーズデザインをつかったワークショップを実施した。

財団サイトの中の理工系女子応援サイト「わたしのあした」にて対談、ワークショップを公開。平成31年度も対談、ワークショップなどを企画・実施する。

2.2 横山基金事業:日立少年少女発明クラブへの助成

平成14年度から、子どもたちの科学・創造性振興に貢献するプログラムとして、日立市の日立少年少女発明クラブの「横山基金大会」(創作作品の発表会)開催を主な目的として支援している。

横山氏の逝去にともない、平成30年度より大会は行われていない。
本事業は当初の目標を達成したため平成30年度を以って終了する。

2.3 大好き いばらき作文コンクール

茨城県内の小・中学生を対象に、個性と創造性に富む心豊かな人づくりを目的に平成29年度から旧小平記念作文事業を引き継ぐ形で、チャレンジいばらき県民運動と共催にて実施している。

平成31年度も『日立財団 小平記念賞』と『日立財団 奨励賞』を設け実施する。

2.4 日立市少年少女スポーツ育成大会事業

スポーツを通して少年少女の健全な心身の育成と、友情、連帯感を培い、犯罪や非行のない明るい社会を作ることなどを目的として、昭和53年度から日立市体育協会と共催で実施している。競技種目は軟式野球、バレーボール、ミニバスケットボール、サッカー、バドミントンの5種目で、平成30年度も1,000人以上の選手が参加した。平成31年度も引き続き、7～8月の夏休みに2日間の大会を実施する。

3. 多文化共生社会の構築

当財団の重点分野の「地域コミュニティ支援」は、国内外のみならずグローバルな社会課題にもなっているダイバーシティとインクルージョンに照準を合わせ包括的な中期テーマとして「多文化共生社会の構築」と掲げ事業内容を一新する。

3.1 「多文化共生社会の構築」シンポジウム

平成31年度は、日立財団として取り組む視点を定め、本テーマ関連のシンポジウムを一般市民向けに企画、開催する。

それに伴い平成30年度に実施した事業は下記の通りとする。

1) Webマガジン「みらい」の発行

本事業は平成28年度から現代社会が抱える課題を多方面から捉え、幅広い読者層に対して発信してきたが、事業内容の一新に伴い、平成30年度をもって終了する。

2) 社会をみつめるシンポジウム

平成30年度は、『少子化時代を生き抜くために～こどもが幸せになる子育て孫育て～』と題して実施した。

本事業も事業内容の一新に伴い、平成30年度をもって終了する。

3) 地域家庭教育支援事業

平成27年度から日立市及び日立市教育委員会と共催で講演会等を実施してきた

が、本事業も事業内容の一新に伴い、平成30年度をもって終了する。

4) BBS^{※1}モデル活動事業への助成

全国のBBS活動の中から、将来のBBS活動の指針となり、かつ青年ボランティアとしての特色を生かしたユニークな活動に対して、平成9年から助成してきたが、本事業も事業内容の一新に伴い、平成30年度をもって終了する。

※1: BBS (Big Brothers and Sisters Movement) 活動

兄や姉のような身近な存在として、問題を抱える少年少女を援助する青年ボランティア団体が展開する更生保護ボランティア活動

以上